

未定稿

欧州(英・仏・独)における開示制度(規制市場)

| | | 英 | | | | 仏 | | | | 独 | | | |
|----------|--------------------------------------|---|---|---|---|--|--|--|--|------------|--|----------------|----------------|
| | | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 |
| 会社法 | 連結 | ○ | IFRS | ○ | 電子開示 (注2) | ○ | IFRS | ○ | 電子開示 (注3) | ○ | IFRS | ○ | 電子開示 (注4) |
| | | Companies Act 2006 (Article 399) | Companies Act 2006 (Article 403) | Companies Act 2006 (Article 430, 441) | Companies Act 2006 (Article 430, 434, 441) | Code de Commerce (Article L233- 16) | Code de Commerce (Article L233- 24) | Code de Commerce (Article L232- 23) | Code de Commerce (Article L232- 23) | HGB290 | HGB315a | HGB325 | HGB325 |
| | 単体 | ○ | UK GAAP あるいは IFRS | ○ | 電子開示 (注2) | ○ | French GAAP | ○ | 電子開示 (注3) | ○ | HGB(ドイツ基準) (任意で、追加的 に公告用にIFRS も作成可) | ○ | 電子開示 (注4) |
| | | Companies Act 2006 (Article 394) | Companies Act 2006 (Article 395) | Companies Act 2006 (Article 430, 441) | Companies Act 2006 (Article 430, 434, 441) | Code de Commerce (Article L123- 12) | Code de Commerce (Article L123- 12) | Code de Commerce (Article L232- 23) | Code de Commerce (Article L232- 23) | HGB264 | HGB325 2a, 2b | HGB325 | HGB325 |
| 資本市場法 | 連結 | ○ | IFRS | ○ | 電子開示 (注5) | ○ | IFRS | ○ | 電子開示 (注6) | (○)(注7) | IFRS | ○ | 電子開示 (注8) |
| | | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.3) | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.6) | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.3) | Disclosure Rules and Transparency Rules(6.3.5) | Code monétaire et financier (L451-1-2) | Règlement gén éral AMF (Article222-3) | Code monétaire et financier (L451-1-2) | Règlement gén éral AMF (Article221-3, 212-13) | WpHG37y | WpHG37y | WpHG37v(1) | WpHG37v (1) |
| | 単体 | ○ | UK GAAP あるいは IFRS | ○ | 電子開示 (注5) | ○ | French GAAP | ○ | 電子開示 (注6) | (○)(注7) | ドイツ基準 | ○ | 電子開示 (注8) |
| | | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.3) | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.6) | Disclosure Rules and Transparency Rules(4.1.3) | Disclosure Rules and Transparency Rules(6.3.5) | Code monétaire et financier (L451-1-2) | Règlement gén éral AMF (Article222-3) | Code monétaire et financier (L451-1-2) | Règlement gén éral AMF (Article221-3, 212-13) | WpHG37v(1) | WpHG37v(2) | WpHG37v (1) | WpHG37v (1) |
| 会計基準設定主体 | 会計基準審議会 (Accounting Standards Board) | | | | 会計基準局 (Autorite des Normes Comptables)(注9) | | | | 法務省(Bundesministerium der Justiz) | | | | |

(注1) 開示対象者を限定していない場合、“○”とする

(注2) 上場会社(Quoted companies)の財務諸表は、Website上で無料で公開しなければならない。また財務諸表は登記義務があり、Registrar(Companieshouse)のwebsiteでも入手可能(有料)

(注3) 財務諸表は登記義務があり、商業裁判所(GREFFE)のwebsiteで入手可能(有料)

(注4) 電子連邦公報の運営者に提出しなければならない。提出された情報は、企業登記簿等のWebsiteで閲覧に供される

(注5) Web上のどのアドレスで財務諸表が入手可能か公表しなければならない。会社のWebsiteの他、Bloomberg, Reuters, London Stock ExchangeなどのService providerのWebsiteで入手可能

(注6) フランス金融市場庁(AMF)に登録された財務諸表を会社のWebsiteで公表しなければならない。

(注7) 商法典による公開義務を負わない場合に限る

(注8) 商法典による開示を行う場合は、年次報告書が、企業登録上で開示されているものに加え、いつから、Web上のどのアドレスで一般に入手可能かという情報を開示しなければならない

(注9) 基準策定を行う国家会計審議会(CNC)と基準を承認するフランス会計規制委員会(CRC)の2機関を統一し、2010年に設立された。

欧州(英・仏・独)における開示制度(非規制市場)

| | | 英 | | | | 仏 | | | | 独 | | | |
|----------|----|--|--|---|---|---|--|--|--|---------------------------------------|---|----------|--------------|
| | | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 | 作成義務 | 作成基準 | 開示義務(注1) | 開示方法 |
| 会社法 | 連結 | ○ | UK GAAP あるいは IFRS | ○ | 電子開示 (注2) | ○ | French GAAPある いはIFRS | ○ | 電子開示 (注3) | ○ | German GAAP あるいは IFRS | ○ | 電子開示 (注4) |
| | | Companies Act 2006 (Article 399) | Companies Act 2006 (Article 403) | Companies Act 2006 (Article 434, 441) | Companies Act 2006 (Article 434, 441) | Code de Commerce (Article L233- 16) | Code de Commerce (Article L233- 24) | Code de Commerce (Article L232- 23) | Code de Commerce (Article L232- 23) | HGB290 | HGB315a | HGB325 | HGB325 |
| | 単体 | ○ | UK GAAP あるいは IFRS | ○ | 電子開示 (注2) | ○ | French GAAP | ○ | 電子開示 (注3) | ○ | HGB(ドイツ基準) (大規模資本会社 は任意で追加的に IFRSも作成可) | ○ | 電子開示 (注4) |
| | | Companies Act 2006 (Article 394) | Companies Act 2006 (Article 395) | Companies Act 2006 (Article 434, 441) | Companies Act 2006 (Article 434, 441) | Code de Commerce (Article L123- 12) | Code de Commerce (Article L123- 12) | Code de Commerce (Article L232- 23) | Code de Commerce (Article L232- 23) | HGB264 | HGB325 2a、2b | HGB325 | HGB325 |
| 会計基準設定主体 | | 会計基準審議会 (Accounting Standards Board) | | | | 会計基準局 (Autorite des Normes Comptables)(注5) | | | | 法務省(Bundesministerium der Justiz)(注6) | | | |

(注1) 開示対象者を限定していない場合、“○”とする

(注2) 財務諸表は登記義務があり、Registrar(Companieshouse)のwebsiteで入手可能(有料)

(注3) 財務諸表は登記義務があり、商業裁判所(GREFFE)のwebsiteで入手可能(有料)

(注4) 電子連邦公報の運営者に提出しなければならない。提出された情報は、企業登記簿等のWebsiteで閲覧に供される

(注5) 基準策定を行う国家会計審議会(CNC)と基準を承認するフランス会計規制委員会(CRC)の2機関を統一し、2010年に設立された。

(注6) 連結会計基準は、ドイツ会計基準委員会 (DRSC) が設定

IFRS・日本基準・UK GAAP・French GAAP・German GAAP の主要な相違点(上場会社・単体)

| 項目 | 国際会計基準 | 日本基準 | UK GAAP | French GAAP | German GAAP |
|----------------|---|--|---|---|--|
| 財務諸表の構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・財政状態計算書 ・包括利益計算書 ・所有者持分変動計算書 ・キャッシュ・フロー計算書 ・注記 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表 ・損益計算書 ・株主資本等変動計算書 ・キャッシュ・フロー計算書(注) ・注記 ・附属明細表 (注)連結財務諸表を作成している場合は作成不要 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表 ・損益計算書(注) ・総認識利得損失計算書(注) ・キャッシュ・フロー計算書(注) ・注記 (注)連結財務諸表を作成している場合は開示を省略できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表 ・損益計算書 ・附属明細書(注記が含まれる) | <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表 ・損益計算書 ・株主持分変動計算書(注) ・キャッシュ・フロー計算書(注) ・注記/附属明細書 (注)連結財務諸表を作成している場合は作成不要 |
| 包括利益の報告 | 必要 | 不要 | 必要 (注)連結財務諸表を作成している場合は省略できる。 | 不要 | 不要 |
| 企業結合の会計処理 | パーチェス法 | パーチェス法 | パーチェス法(一定の状況下では持分プーリング法が適用される) | パーチェス法(一定の状況下では持分プーリング法が適用される) | パーチェス法 |
| 開発費 | 資産計上 | 費用処理 | 資産計上あるいは費用処理の選択適用 | 資産計上あるいは費用処理の選択適用 | 資産計上あるいは費用処理の選択適用 |
| (固定資産の減損)減損の兆候 | 損益、キャッシュ・フローや回収可能価額等で判断 (数値基準なし) | 損益、キャッシュ・フローや回収可能価額等で判断 (具体的な数値基準として、市場価格が帳簿価額から50%程度以上下落した場合はある。) | 損益、キャッシュ・フローや回収可能価額等で判断 (数値基準なし) | 損益、キャッシュ・フローや回収可能価額等で判断 (数値基準なし) | 市場価格が帳簿価格より低いかどうかで判断(市場価格の下落が一時的である場合を除く) (数値基準なし) |

IFRS・日本基準・UK GAAP・French GAAP・German GAAP の主要な相違点(上場会社・単体)

| 項 目 | 国際会計基準 | 日本基準 | UK GAAP | French GAAP | German GAAP |
|--------------------------|--|--|--|--|--|
| のれん | <ul style="list-style-type: none"> ・非償却 ・減損テストは、減損の兆候に関らず最低年1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・原則として 20 年以内に定期的に償却 ・減損テストは、減損の兆候があるときのみ | <ul style="list-style-type: none"> ・原則として 20 年以内に定期的に償却 ・減損テストは、減損の兆候があるときのみ。ただし、のれんを償却しない場合または 20 年以上で償却する場合には、毎年減損テストを実施する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・非償却 ・減損テストは減損の兆候があるときのみ (連結財務諸表においては、定期的に償却) | <ul style="list-style-type: none"> ・見積経済耐用年数で償却 ・減損テストは、減損の兆候に関らず最低年 1 回 |
| (リース会計) ファイナンス・リースの借手 | 資産計上 | 資産計上 | 資産計上 | オフバランス | 資産計上 (ただし、税法通達及び租税裁判所の判例に従って、オフバランスとされる範囲は広い) |
| 金融商品の時価評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・売買目的有価証券(P/L計上)とその他の有価証券(その他の包括利益)を時価評価(IAS39) ・すべての金融商品の時価開示が必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・売買目的有価証券(P/L計上)とその他の有価証券(資本直入)を時価評価 ・2010 年 3 月期以降、すべての金融商品の時価開示が注記として必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・売買目的有価証券(P/L計上)とその他の有価証券(その他の包括利益)を時価評価 ・すべての金融商品の時価開示が必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券は保有目的に応じて 4 区分に分類されるが、いずれも低価法で評価される。 ・区分に応じて、使用価値による低価法、市場価値による低価法、譲渡可能価格による低価法などが適用されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1 年基準で流動資産と固定資産に分類し、流動資産は低価法、固定資産は取得原価評価 |

IFRS・日本基準・UK GAAP・French GAAP・German GAAP の主要な相違点(上場会社・単体)

| 項 目 | 国際会計基準 | 日本基準 | UK GAAP | French GAAP | German GAAP |
|---------------|--|--|--|--|--|
| 退職給付会計 | <ul style="list-style-type: none"> 退職給付債務及び年金資産に基づき会計処理 数理計算上の差異については、即時認識又は遅延認識。即時認識の場合は資本直入も認められる。 | <ul style="list-style-type: none"> 退職給付債務及び年金資産に基づき会計処理 数理計算上の差異については、即時認識又は遅延認識(すべて純損益) | <ul style="list-style-type: none"> 退職給付債務及び年金資産に基づき会計処理 数理計算上の差異については、即時認識(資本直入)のみ | <ul style="list-style-type: none"> 退職給付債務及び年金資産に基づき会計処理。オフバランス処理も可 数理計算上の差異は即時認識または遅延認識。ただし、資本直入での即時認識は認められない。 | <ul style="list-style-type: none"> 退職給付債務¹及び年金資産に基づき会計処理。外部積立はオフバランスも可 数理計算上の差異については即時認識(純損益)のみ |
| 繰延税金資産 | 回収可能性の判断については、合理的な計画が必要(毎期検討) | 回収可能性の判断については、合理的な計画が必要(毎期検討) | 回収可能性があるもののみ資産計上 | 税効果会計は適用されない。 | 任意で計上可(繰延税金負債は計上を強制) |
| (収益) 収益の認識 | <p>(以下の全てが満たされているとき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要なリスク及び経済的価値が買手に移転 販売後、管理上の関与も実質的な支配も保持しない 取引に関連する経済的便益が流入する可能性が高い 収益の額や発生した原価を信頼性をもって測定可能なこと | 実現主義の原則に従い、商品等の販売又は役務の給付により実現したものに限る | 取引の実行により、対価請求権を獲得したものに限り | 法的な所有権の移転に基づいて計上 | 実現主義の原則に従い計上 |

¹ 割引率はドイツ中央銀行が公表する過去7年間の市場平均金利

IFRS・日本基準・UK GAAP・French GAAP・German GAAP の主要な相違点(上場会社・単体)

| 項 目 | 国際会計基準 | 日本基準 | UK GAAP | French GAAP | German GAAP |
|----------------|------------------------------------|---|--|--|---|
| (棚卸資産) 評価基準 | 帳簿価額と正味実現可能価額のいずれか低い額で測定 | 正味売却(実現可能)価額が帳簿価額より下落している場合、簿価を切り下げ | 帳簿価額と正味実現可能価額のいずれか低い額で測定 | 帳簿価額と正味実現可能価額のいずれか低い額で測定 | 帳簿価額と正味実現可能価額のいずれか低い額で測定 |
| (有形固定資産) 投資不動産 | 公正価値にて每期測定又は取得原価(取得原価による場合、時価等を開示) | 他の有形固定資産と区別せず、取得原価ベースにて計上(2010年3月期から時価等を開示) | 公正価値にて每期測定 | 他の有形固定資産と同様、取得原価ベースで計上 | 他の有形固定資産と同様、取得原価ベースで計上 |
| (有形固定資産) 減価償却 | ・経済的実態を反映 | ・経済的実態を反映。ただし、耐用年数等が不合理でない限り、税務上の減価償却方法が認められている。 (税務上、減価償却費の損金経理要件がある) | ・経済的実態を反映。一定の要件を満たした場合、減価償却を実施しないことを認める。 (税務上、減価償却費の損金経理要件なし ²) | ・経済的実態を反映。ただし、税務上の増加償却を特別損失で計上することが認められている。 (税務上、減価償却費の損金経理要件がある) | ・経済的実態を反映 (税務上、減価償却費の損金経理要件なし ³) |
| セグメント情報 | マネジメント・アプローチ (経営者の視点によるセグメント) | マネジメント・アプローチ (ただし、セグメント情報は連結財務諸表を作成していない場合のみ必要) | 事業の種類別、所在地別など (ただし、セグメント情報は連結財務諸表を作成していない場合のみ必要) | 作成不要 | 作成不要 |

² 税務上、会計上の減価償却費をいったん取り消し、あらためて税務上の減価償却費(Capital allowance)を損金算入

³ 税務上の選択権を行使して、異なる金額の減価償却費を計上できる。ただし、税務計算のために、取得時点・価格・償却方法・金額などを継続的に記録する必要がある